

学生や教官が見守る中、熊本空港に着陸した崇城大の新しい訓練機



新訓練機にロゴ「がまだせ熊本！」

崇城大工学部宇宙航空システム工学科が17日、新しい双発の訓練機を導入した。熊本地震からの復興を願って「がまだせ熊本！」のロゴが入っており、大学関係者は「地震に負けずにパイロットを目指す象徴にしたい」と意気込んでいる。

機体は「ビーチクラフト式 バロン G 58型」（長さ約9 ㍎、幅約12 ㍎）。同日午後、熊本空港に着陸し、空港内にある同大空港キャンパスで学生や教官ら計約50人の出迎えを受けた。消防

崇城大
3機目の
双発機

車による歓迎の放水もあった。

同機の導入で、同学科が所有するのは双発機3機、単発機9機となった。熊本地震では格納庫や訓練機にほとんど被害はなかったが、別の建物内の操縦シミュレーターなどが損傷し、5月上旬まで授業ができなかったという。

パイロット出身の渡辺武憲教授(68)は「授業再開までは大変だったが、新しい機体が来ると、教官にとっても学生にとっても頑張ろうという励みになる」と話している。